

# 第4章 アフガニスタン侵攻

---

## 第一節 国連決議

国連の安全保障理事会はアフガニスタンに対し、下記の通り次々に決議を出していた。

- 決議 1267 (1999): 1999年10月15日
- 決議 1333 (2000): 2000年12月19日
- 決議 1368 (2001): 2001年9月12日
- 決議 1373 (2001): 2001年9月28日

2001年9月28日決議1373(2001)は、つぎの内容となっていた。

- ✓ 9/11のニューヨーク、ワシントンDC、ペンシルバニアで起きたテロに対し強く非難する。
  - ✓ 国際的なテロは世界の平和と安全を脅かす。
  - ✓ あらゆる手段によって、国連憲章の下、テロ行為による脅威と戦う必要を確認する。
- このような国連のお墨付を得た米国は、アフガニスタン侵攻へと向かったのである。

## 第二節 米軍による爆撃

米国本土が炭疽菌入りの手紙で、恐怖におののいていた時期、アフガニスタンの人々は米軍の爆撃に晒されていた。

2001年10月5日に千人の米軍部隊がアフガニスタンと国境を接するウズベキスタンへ送られた。10月7日に米軍はアフガニスタンの爆撃を開始した。この攻撃は爆撃機と巡航ミサイルによって行なわれ、カブール、カンダハール及びジャララバードがその対象となった。北方のマザル・エ・シャリフでも爆発と火事が報告された。ブッシュ大統領は米国民にむけてテレビ演説を行い攻撃は米軍と英軍の共同作戦でおこない、アルカエダの訓練基地と軍事施設を狙ったものである、と説明した。さらにタリバンはテロリストをかくまった事により、高価な代償を支払わなければならないだろう事、この作戦には食料や医薬品及びその他の補給品をアフガニスタン市民に投下することも含まれている事を述べた。トニー・ブレア英国首相はこれに呼応して西欧は道理と決意を持って行動すると述べた。一方タリバンは聖戦の用意は出来ていると応じた。リチャード・マイヤー統合参謀本部議長はこの作戦に長距離爆撃機15機、艦載攻撃機15機、米軍と英軍の潜水艦から発射されたトマホークミサイル50機が使われたと発表した。<sup>i</sup>

10月8日は爆撃機10機、艦載攻撃機10機及び若干のトマホークミサイルにより攻撃が行なわれ、早期警戒レーダー、通信施設、飛行場及び航空機を破壊した。10月9日カブールの東数マイルにあるビルで四名の国連要員がミサイル攻撃で殺され、四名が負傷した事を国連が発表した。

10月11日、ブッシュ大統領は記者会見でタリバンに対し次のようなメッセージを送った。「もしオサマ・ビン・ラディンとその仲間をタリバンが捕縛するなら、我々は現在の攻撃を考え直すだろう。まだ、チャンスはある。」さらに中東問題に触れて「イスラエルを尊重し、平和的な国境を決められるなら、私はパレスチナ国家があるべきだと思っている。ミシェルが提唱した案に乗れば中東問題の政治的な解決について議論できるだろう。」と述べた。

一方、空爆により非戦闘員である市民の被害が広がっていた。左の表はその被害の一部の状況を示している。

### 第三節 爆撃による被害

米国は軍の損失を少なくするために、北部同盟を支援して地上戦をまかせ、米軍は空爆だけを行なうという方針を打ち出した。この方針に沿って行なわれた空爆は多くの市民を殺傷したばかりではなく、モスクで祈りをささげる人々をも殺したのである。

10月10日	ジャララバード、ナンガハル地区スルタンプール・モスク	夕べの祈りの時間に爆撃	17人死亡
10月12日	クンドウズ市モスク	金曜礼拝時間帯に爆撃	23人死亡
10月21日	ヘラート、カラエシャタの軍基地内モスク	祈りをささげているときにクラスター爆弾で攻撃	15人が死亡
10月24/ 25日	ヘラート東方10キロのイシャク・スライマン村のモスク	夕刻村人が出てきたところをクラスター爆弾で攻撃	20人死亡
10月27日	カンダハール郊外ルンガルのモスク	爆撃により被害	死者数不明
11月15日	カンダハール市内東側モスク	爆撃により被害	11人死亡
11月16日	コストのコーランの灯りモスク	ラマダンの祈り中に JDAM 爆弾で被害	34人死亡

12月10日	マシケル村のサカワ・モスク	爆弾により被害	少なくとも4人死亡
12月20日	アスマニ・キライのモスク	老人の護送車列に米軍が攻撃	不明

アフガンへの米英連合軍の爆撃により、3,000 - 3,400 人の市民が犠牲になったと推定されている。ニューハンプシヤ大学のマークW. ヘロルド教授の分析によれば、米軍作戦担当者が明らかに意図して人口密集地帯にミサイルや爆弾を投下したためである。軍事施設がこの地帯に存在したことも事実だが、決定的な要因はアフガニスタン市民の生命に非常に低い価値付けをしていたからだ。ヘロルド教授はこの爆撃について六つの問題点を挙げている。

- 1、爆撃の密度は低いにも拘らず、市民の死傷者が多く出る作戦であった。
- 2、米軍の武器は精密であるにも係わらず、人口が密集した地帯で軍事施設かどうか分からぬ対象に強力な爆弾を使った。
- 3、主力メディアが市民の死傷者について報道することを怠った。
- 4、爆撃作戦担当者が、明らかにアフガン市民の命の価値と、アメリカ人の命の価値に差をつけた。
- 5、戦争では戦闘員だけを殺すという原則に反する傾向が米国にはある。
- 6、民間施設を狙い且つ、クラスター爆弾を多用するやり方は、アルカエダやタリバンとの戦いと言うよりは、アフガニスタン人の家、村、農場に対する戦争である。<sup>ii</sup>

さらに10月19日には米軍特殊部隊が地上攻撃に投入された。この部隊は直接戦闘に参加するのではなく空爆の標的判定と北部勢力の支援を行うことを目的とした。

10月25日タリバンに対抗するアフガニスタン人のリーダーであるアブドウル・ハクが殺された。彼は四日前に反乱を起こす目的で、小部隊を引き連れアフガニスタンに潜入したが、タリバン部隊に発見され包囲された。彼は米国に居る支持者に電話で助けを求めた。前国家安全補佐官ロバート・マクファーレンはCIAに対し、直ちに援助を送りアブドウル・ハクを救出するよう依頼した。戦闘は十二時間続いた。CIAは地形が悪すぎると言う理由で救出ヘリコプターを送るのを断った。アブドウル・ハクはタリバンにつかまり、処刑された。彼はアフガニスタンからタリバンを追い出す理想的な指導者と見られていた。

11月13日カブールは北部同盟によって陥落した。14日には北部同盟がジャララバードも占領した。だが、およそ1,000人のアルカエダ及びタリバン部隊がジャララバードを抜け出し、トラボラの要塞にたどり着いた。ビン・ラディンはこの中に混じっていたと考えられた。

11月16日のニューズウィークによれば、約600名のアルカエダとタリバンの戦闘員がこの日アフガニスタンを脱出した。トラボラの洞窟地帯からパキスタンへ通じるルートは二つある。米

軍は一つのルートしか爆撃しなかったため、この 600 人の部隊は攻撃されることなく抜け出せた。数週間にわたって数百人がこの脱出ルートを使い続けた。

11 月 25 日米軍部隊がタリバンの要衝カンダハールの近くに到着した。新たにアフガニスタンの臨時主席となったハミド・カルザイは、タリバンが降伏して町を明け渡すという条件で特赦を発表した。さらにタリバンのリーダー、ムラー・オマールにも「尊厳を保って」退却することを許した。タリバン部隊は 12 月 7 日から投降を始めたが、オマールは逃げ去った。<sup>iii</sup>

一方ではクンドウズが北部同盟の攻撃により陥落した後に、数千人のタリバン支持者がマザルシャリフで殺された。米軍はこれを見過ごしたか、あるいは加担したとサンデイ・ヘラルドは報じている。マザルシャリフの虐殺はヨーロッパで広く報道されたが、米国では報道されなかった。

12 月 8 日、中央アジアのカザフスタンを訪問中だったパウエル国務長官は、カザフスタンだけでも 2,000 億ドルに上る投資を米国の石油会社が計画中であると発表した。

12 月 17 日北部同盟は 12 月 5 日から行なわれていたトラボラの地上戦に勝利したと宣言した。こうしてアフガン戦争はタリバン／アルカエダの局部的な抵抗を駆逐し、終了した。しかし、ついにオサマ・ビン・ラディンの行方は分からずじまいであった。2001 年 12 月 22 日ハミド・カルザイとその過渡政権がアフガニスタンの政権を握った。彼はユノカルのコンサルタントを務めたことがあり、かつてはタリバンの外相も務めた人物である。

---

<sup>i</sup> U.S. Bombing of Afghan Mosques, By Marc W. Herold,  
<http://www.cursor.org/stories/helltopray.htm>

<sup>ii</sup> A Dossier on Civilian Victims of United States' Aerial Bombing of Afganistan, by Prof. Marc W. Herold, University of New Hampshire  
[http://cursor.org/stories/civilian\\_deths.html](http://cursor.org/stories/civilian_deths.html)

<sup>iii</sup> U.S. Invasion of Afghanistan  
<http://us-invasion-of-afghanistan.area51.ipupdater.com/>